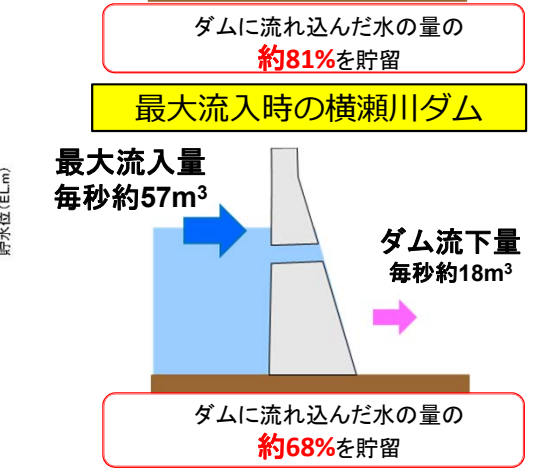
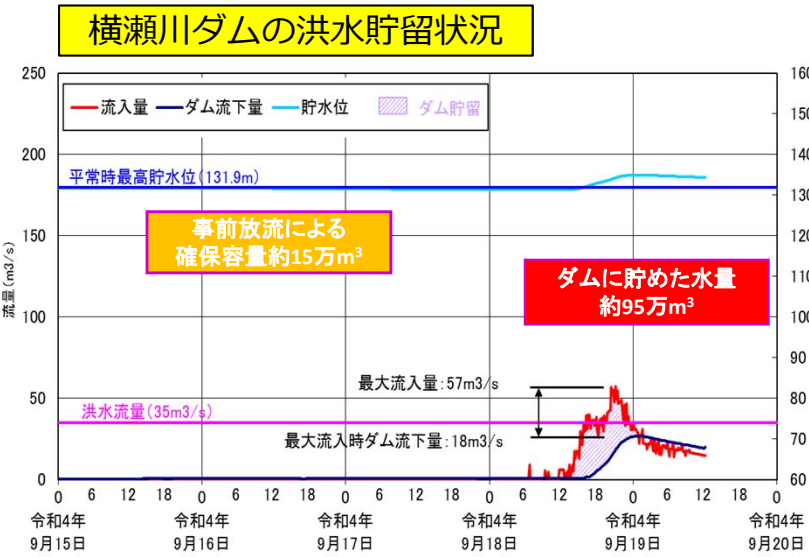
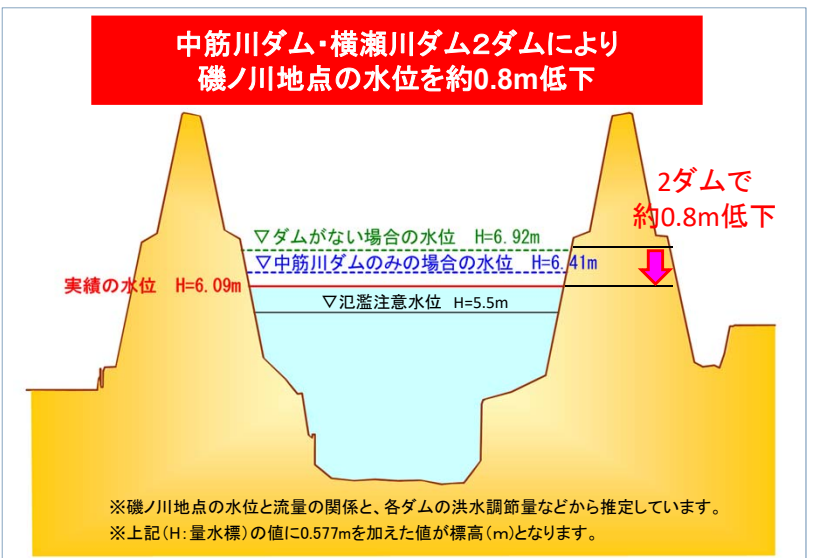
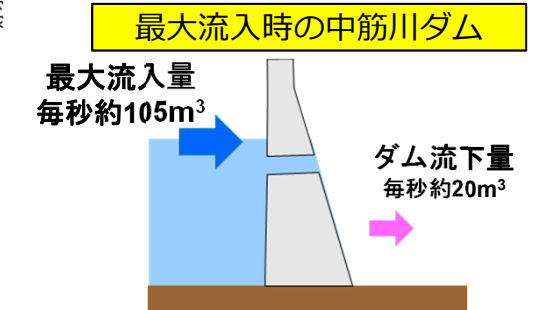
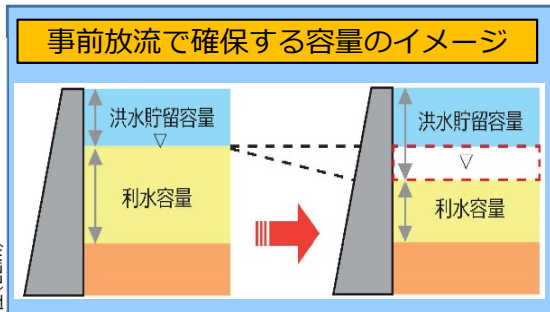
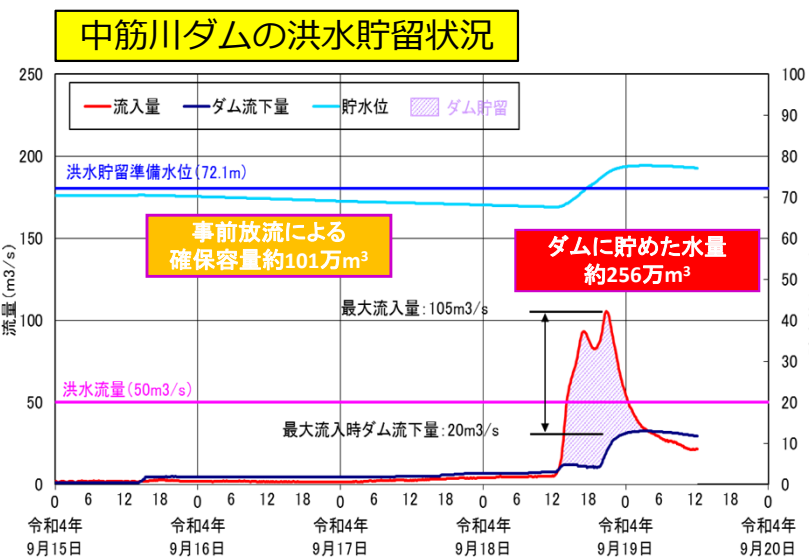
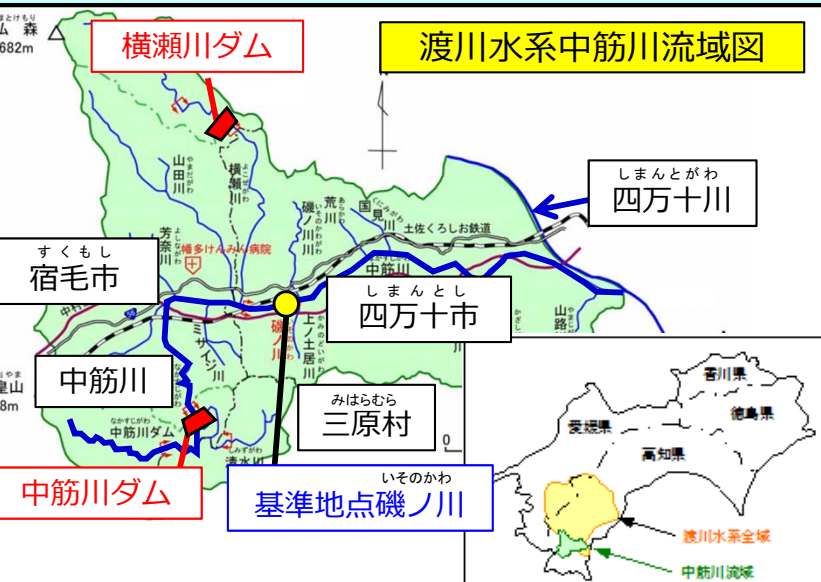


中筋川ダムと横瀬川ダムの効果(高知県・渡川水系中筋川)

- 令和4年9月16日からの降雨は、中筋川ダム上流域で累計359mm^{※1}、横瀬川ダム上流域で累計293mm^{※2}の降雨を観測。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約81%をダムで貯留し、横瀬川ダムでは最大流入量の約68%をダムで貯留。
- ダムがない場合は、磯ノ川地点で約0.8m水位が上昇していたものと推定。
- また、台風14号に備え事前放流を実施し、2ダムで洪水貯留容量に加え、事前に約116万m³^{※3}の容量を利水容量から確保。

※1:9月16日22時~19日19時(時間最大約52mm・18日13時)、※2:9月17日2時~19日19時(時間最大約27mm・18日13時)
 ※3:事前放流により確保した容量は洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位から最大確保できた容量



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

ダムの貯留状況

中筋川ダム



貯留前(事前放流完了) EL=67.59m (9月18日12時10分)



今回洪水による貯留量
約256万m³

貯留後 最高貯水位EL=77.69m (9月19日3時20分)

横瀬川ダム



貯留前(事前放流中) EL=131.67m (9月16日9時00分)



今回洪水による貯留量
約95万m³

貯留後 最高貯水位EL=134.97m (9月19日0時40分)